

# 希望のどんぐり



## 希望のどんぐり

福来東小学校 六年 和田莉音

二〇一一年三月十一日、東日本大震災が起きた時、私たちは東栄町の山で、どんぐりの苗木を植樹した帰りのバスの中でした。

私たちの学校は、宇連川と明神山などの山がある自然豊かな学校です。そんな所に住んでいる私たちが、どうして植樹しているかと言うと、山の木の多くが杉の木だからです。

植樹の仕方とどんぐりの育て方を教えてくれるプロの法人「どんぐりセンター」の角和さんが、杉の木よりどんぐりの木の方が、森や川が豊かになると教えてくれたからです。

どんぐりの木が多いと、たくさんの種類の昆虫と動物が集まり、どんぐりの葉が川に落ちることで、水の栄養となり魚が集まりきれいになります。だから私たちは、もつと自然を

だ残っていたり、仮設住宅があつたりと震災の跡が残っていて、復興していると思っていたので、びっくりしました。次の日、海岸沿いに千年希望の丘に行くとき海岸沿いはガレキの他には何もなくて、海岸から離れた場所に家が建っていました。何もない海岸沿いに一軒だけ家が建っていました。その家をよく見ると一階がぐしゃぐしゃで、こんなに津波は強くて遠くまで来たんだなと分かりました。植樹をする前、地元の人と話すことができました。その人は、農作業をしている人たちに津波が来るから逃げると知らせていて、津波に飲み込まれたそうです。運よくその人は助かったけれど、他の多くの方は津波の犠牲になったことを涙ながらに話してくれました。この話を聞いて、津波は本当に怖く、人の力ではどうすることもできないんだなと思いました。

植樹をする前、角和さんがどんぐりの木が津波に強いということを話してくれました。どんぐりの木は、太い根が下へ伸び、土や大きな岩などをつかむように根が張るから、津波が来ても流されにくいそうです。だから、千年希望の丘にどんぐりの木を植えます。

時間になって集合すると全国から約三千人も人が集まっていました。私はその人たちを見て、被災地の人のためにこんなに多くの人たちと一緒にどんぐりを植えてできる千年希望の丘は、復興のシンボルになるはずだと思います。私は

豊かにするためにどんぐりを植えています。

植樹をして家に帰り、テレビで震災の様子を見ました。家や車、そして木などが流されているのを見て、すごく大きな地震だったんだなと思いました。多くの人たちが被災したのを見て、私たちが何かできることはないかと思い、募金活動をしました。他にもできることはないかと思つていたら、角和さんから東北の自然を取り戻すために、東北のどんぐりの苗を育ててほしいと言われ、全校で育てることになりました。私は、その話を聞いて、私でも東北のために役立つことができるんだとうれしかったです。

東北のどんぐりを分けてもらい、牛乳パックに土を入れ、東北のどんぐりを植えました。約半年家で水をやり大切に育てました。育てた苗を学校の花だんに植えかえ、毎水をあげ約二年間大事にどんぐりの苗を育てました。そして今年の三月に、校長先生から全校を代表し、六年生になる私たち二人が、宮城県の岩沼市で行われる千年希望の三プロジェクトに参加し、育てた苗木を植えてくると言われました。私は、この話を聞いて大事に育ててきた苗木を植樹できることがうれしかったし、実際に被災地を見てみたいと思つていたので、参加したいとすぐに言いました。

六月八日、千年希望の三プロジェクトに参加するために、宮城県の岩沼市に行きました。岩沼市に入るとガレキがま

丘に登り、どんぐりの苗木を五本植えました。私たちが育ててきたどんぐりの苗木ではなかつたけれど、ここに来られなかつた一〜五年生の十三人の想いを込めて植えました。植えた後、角和さんから私たちのどんぐりの苗を植えたことを教えてもらいました。

帰る前にたくさんの苗木が植樹された千年希望の丘を見て、何十年後にはこの場所が緑豊かで、人々のいい場所になってほしいなと思いました。もし今回のような地震があった時、この丘が多くの人たちを守つてほしいです。

今回植樹に参加して思つた事は、震災から一年以上たつているのに、ガレキや仮設住宅があるとは思つていなかったもので、復興とは簡単に言えるけれど、実際は難しいんだなと実感しました。私たちが育ててきたどんぐりが少しでも復興の役に立つたと思うとうれしかったです。千年希望の丘に植えたどんぐりの苗木を、大人になったらどれだけ成長しているかを見に行きたいです。植樹に行けたのは多くの地域の方々に参加して下さったおかげです。これからも地域の方と一緒に復興の協力をしたいです。

この作文を基に、和田莉音さんと小野田怜奈さんの二人が「聞いてください私の話」で発表しました。

